

古代・中世の東海道を発見

—多目的屋内施設整備に伴う^{あくみ}飽海遺跡の発掘調査で—

豊橋公園東側エリアの多目的屋内施設整備に伴い発掘調査を行っている飽海遺跡において、古代・中世の東海道と考えられる遺構が発見されました。平安時代から戦国時代（9～16世紀）にかけて存続した道路の遺構で、古代の東海道が発見されるのは愛知県内では初、東海地方では静岡市の^{まがりかねきた}曲金北遺跡、可能性が指摘される三重県鈴鹿市の平田遺跡に次いで3例目です。

この成果を広く公開するため、下記により市民向けの現地説明会を開催します。



発見された古代・中世の東海道

ポイント① 調査区内を北西—南東に貫く一直線の道路跡

古代の東海道は、^{えきば}駅馬を使って中央と地方を最短時間で結ぶ必要があるため、地形や地質にかかわらず一直線に設けられます。今回見つかった古代・中世の東海道は、調査区内を北西から南東に一直線に貫いており、確認された長さは120m、幅約9mです。さらに、過去に周辺で実施された別の発掘調査から、一直線に270m以上伸びていることが判明しました。

ポイント② 平安時代前期から戦国時代まで、700年間維持された道路

調査によって、古代の東海道は9世紀に設けられ、13世紀には石敷き路盤を伴う舗装が行われるなど、16世紀までたびたび整備されながら存続したことが判明しました。

ポイント③ 古代・中世の東三河平野部の基軸線

今回見つかった古代・中世の東海道は、主軸方位が南北ではなくN-39°-Wとなります。この方位は、古代・中世に設けられた条里制の地割と一致し、東海道を延長すると北西は古代三河の中心的な役所である「三河国府」に、南東は丘陵に挟まれた狭隘部で、近世東海道も通過した「火打坂」に達します。このことから、古代・中世の東海道は東三河平野部の広大な土地利用計画の基軸線も兼ねていたと考えられます。

問合先 教育部美術・文化財課 文化財センター所長 岩原（電話 0532-56-6060）

●有識者のコメント

近江俊秀 奈良大学文学部 文化財学科 教授

※専門：考古学、古代交通史、文化財行政学。古代の道路事情に詳しい

「検出された遺構は、古代東海道の可能性が極めて高く、疑念を持つ要素がない。全国的に駅路を改変するようになる奈良時代後半以降の、9世紀（平安時代前期）の道路跡である。また、豊川の渡河点と接続し海上交通との関係が推察される点や、調査区内だけでなく、延長した沿線の地形や遺跡に矛盾が無い点も注目できる。」

●発掘調査現地説明会（市民向け）

日 時 令和8年7月25日（土） 10:30～と14:00～（1日2回、60分程度）

会 場 多目的屋内施設整備 発掘調査現場（豊橋市今橋町3-1、豊橋公園）

参 加 どなたでも。参加無料、当日受付（事前申込み不要）

内 容 調査成果の説明、資料の配布、出土品の展示など

問合せ 豊橋市文化財センター TEL0532-56-6060

※平日8:30～17:15開館

その他 来場は、公共交通機関をご利用ください